



Topics ~循環器診療に役立つ、最新の話~

心房細動で抗凝固療法を中止したい患者さんはいませんか？
脳卒中予防の左心耳閉鎖デバイス（WATCHMAN）を留置し、抗凝固療法の中止を可能にします

当院で左心耳閉鎖デバイスであるWATCHMAN（ウォッチマン）の治療を開始しました。パラシュート型のデバイスを左心耳に留置し塞ぐことで、左心耳を血栓化させ閉鎖します。心房細動では主に左心耳の血栓が脳梗塞の原因になることから、左心耳閉鎖後は抗凝固療法の中止が可能です。WATCHMANは右大腿静脈からカテーテルで留置され、手技は全身麻酔で1時間以内、入院期間は4日間です。WATCHMANのメリットは、①抗凝固療法を中止することで出血性合併症を減少させること（PINNACLE FLX 試験では抗凝固療法中止率 96.2%）、②左心耳を閉鎖することで重篤な脳梗塞の発生を減少させることです。脳出血や消化管出血の既往またはハイリスクであり、抗凝固療法の中止が望まれる患者さんがWATCHMANの最もよい適応と考えます。また、心房細動で抗凝固療法を行っているにも関わらず脳梗塞を発症した患者さんに、脳梗塞再発予防として左心耳閉鎖が有効な可能性があります。抗凝固療法の中止が望まれる患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ当院へご相談ください。



日本循環器学会から示されているガイドラインは、以下のうち1つ以上を含む出血の危険性が高い患者さんがWATCHMANの適応基準となっています。

- ・HAS-BLEDスコアが3以上の患者さん
- ・転倒にともなう外傷に対して治療を必要とした既往が複数回ある患者さん
- ・びまん性脳アミロイド血管症の既往のある患者さん
- ・抗血小板薬の2剤以上の併用が長期（1年以上）にわたって必要な患者さん
- ・出血学術研究協議会（BARC）のタイプ3に該当する大出血の既往を有する患者さん

文責 循環器内科・心臓血管カテーテルセンター長 徳山 榮男

スタッフ紹介 Vol.24



小澤 千尋

医師

循環器内科 科長

2019年

島根大学医学部卒

今年4月より赴任いたしました。埼玉県出身、島根大学医学部卒です。大学ではドラムを叩いていました。スティックは何本も折りましたが、そのパワフルさでかわぐちの医療を支えていきたいと思っています。ドラムで鍛えたリズム感で、心音の不整を聞き逃さず診療させていただきます。今後も何卒よろしくお願ひ申し上げます。



過去のハートチーム通信はこちら →

